

# ほん・え・ほん

はじめ じゅんこ

外は雨…。この日は雨音をききながら家の中で静かに過ごすのが一番です。

でも、せがれだから ゆうな雨の日を、楽しい雨の日にした方に おおめの一冊です。

また、運悪く観覧会の当日、雨に降られてしまった方に、雨もまた楽し…と、また元気をくします。

— ふうふの生活の中で、雨の日に、いい自然を観察したり、生きものの生活をのぞいたりすることは、よいものね。

絵本は、女の子が詩のようにリズムカルな文章で、雨の日の生きものの生態について語ります。

(1974年 発行  
金の星社 ¥1,010)

絵は、ブルー・ブラックにほんの少し黄色で、コントラストを付けた、まじに“雨の日”です。

小島にみちが、へん、ね…と、いろいろな生きものたちが出てきますが、彼女は「ちやうちやう」だけは、どうしているのか、みたことか、ない…と言います。

私も、実はみたことがありません。今年こそ、この目で確かめたいと思います。

## ジルベルトとかぜ

私の住む志賀町は、とても風の強いところです。季節にかかわらず、ひたひたから、比叡山系から…と、時間によつて、天候によつて、いろいろな風が吹きます。

大阪にいた頃は、あまり意識しなかった“風”ですが、ここに来てから、その存在を、とても意識するようになりました。

と、また風とは友達にもなれることも知りました。

それは、風の強いある日のことです。私の息子が、とらに、おちていたパニの入ったビニル袋を、ひいて、何やら一生懸命やっていました。

何をしているのだろう—と、見ると、高い建物の側で、風が巻いていて、ビニル袋を巻きあげています。上手に風に乗ると、それがおもろいように、くるくる、ごんごん、空高くのぼります。

あめが ふるとど  
ちようちようは  
どこへ

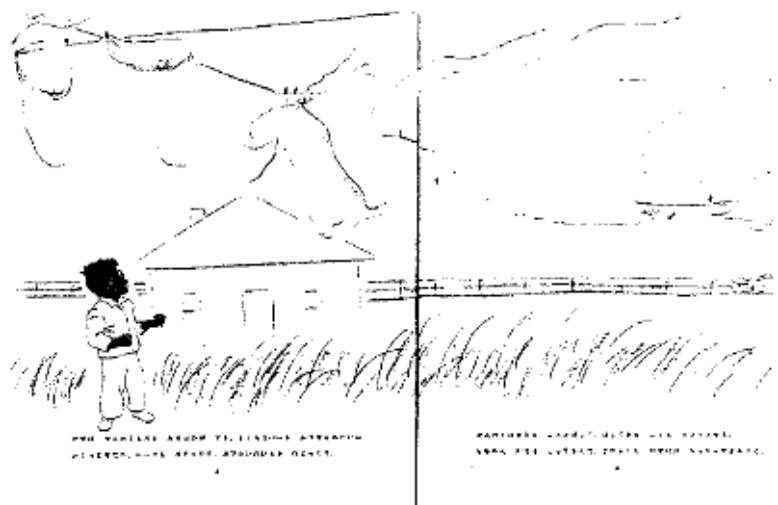
マリ・ホル・エツツ  
たなへいます。

(1975年 発行  
富山房 ¥1,200・税)

私もやらせて もらいましたが、奥に  
これが おもしろい!!

ちなみに、帰る時 彼は そのビニール  
を持って帰る!... と言って 王かな  
かったことを 考えても、彼にとりて  
おもしろい楽しかったのだと思います。

目には 見えなくても、風も 手に  
「自然」です。



しかも、身体全体で感じられる「自然」です。

この本の中に出てくる少年「シルバート」は、本当に上手に風と遊びます。  
この本に見えない「自然」と遊べるシルバートは、もっと豊かな感性の持ち主  
でしょう。もっと豊かな心をもった大人になれるだろうと思います。

絵は、素朴な線とモノクロの色合いです。劇画風の風を表わす  
「メゲメゲ」というような線は一切使っていません。

一冊が、木のけり、洗ったものや枯葉の動き、草のうねりで「その風」の  
存在を はっきりと感じます。

シルバートに風の遊びを教えてもらって、風が吹いたら 外へ飛び出して  
みませんか?!

## はちうえは ぼくにまかせて



シー・ジョン・ミ  
マ・グレット・アコイ・グレアム エ  
より ひさし やく

夏休み、お父さんの仕事が終わって、どこにもいけないトミーは、  
すまは商店を思いましました。近所の旅行に行く人達の  
鉢植えを あかせる 仕事です。

トミーは一生懸命 世話をします。そのかいあって、鉢植えはどん  
どん大きく元気に育ち、とうとう ぐらぐらに 家を 占拠して  
しましました。

ある夜、鉢植えに 家を 二わたり 夢を見て、今度は 勉強し、  
のびのびと 育ち、その 枝を 小工は 鉢に うえることを  
思いましました。

(ハニキニネ ¥1,236)  
1981年発行

というお話です。あまり注目していない、金本の中の自然がテーマなのに、おもしろい。  
鉢植えを大切に育てるトミーが、とてもかわいいのです。また、ぐらぐらの子どもが  
「おじい」として、そのお父さんである母親にも 感動を 与えています。